

2025年3月期 決算説明会 Q&A (2024年10月31日開催)

Q1. 第2四半期に国内受注が回復したにも関わらず、修正後の下期国内受注計画が上期実績を下回っているのはなぜか？

A1. 国内受注は低迷していた部品加工向け受注が7月以降回復しており、下期も回復が継続すると予想していますが、受注計画においては第2四半期の大口案件の反動も考慮しています。

Q2. アメリカの受注が第1四半期から第2四半期にかけて減少したが下期は回復を期待できるか？

A2. アメリカは昨年航空機関連の受注に支えられ、倉庫の新規投資など物流関係の投資も活発でしたが、自動車関連では新エネルギー車への移行など方向性の不透明さによる受注の先送りが要因となり、第1四半期と比較して第2四半期の受注は減少しました。下期は堅調な航空機関連および医療関連に加え、自動車関連においても回復の兆しがあることから、受注回復を見込んでいます。

Q3. 中小企業や欧米での需要が回復すると売上に占める中・小型機の割合が増加し、限界利益率が減少するのではないか。限界利益率を増加させる大型機や5軸機の拡販は期待できるのか？

A3. 効率化・省人化の需要増加に対応した新機種が発売および販売活動により、2021年以降は大型機や5軸機の売上は増加しています。同様に当社シンガポール、中国、インドの工場で生産している3・4軸の中・小型機の販売も強化することで、工場の稼働率を上げ、営業利益率の向上に努めています。

本資料に記載いたしました将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。

そのため、実際の業績は、さまざまな要因により、記載された見通しと大きく異なる結果となる可能性があることをご了承願います。

実際の業績に影響を与える重要な要因には、当社の事業を取り巻く経済情勢、社会的動向、当社の提供するサービス等に対する需要動向による相対的競争力の変化等があります。なお業績に影響を与える重要な要因は、これらに限定されるものではありません。